

1. 生徒の実態

(1) 生徒の実態

1年生・・・授業への興味・関心は高く意欲的に学習しているが、一部に理解が不十分な生徒が見受けられる。疑問を解決しようとする積極性が見えるが、それが私語の原因になることが多い。基礎的技術の習得は早い生徒が多い。

2年生・・・授業に対する姿勢はほぼ良好ではあるが、一部の生徒に真剣さの欠ける態度が見える。それに影響され、私語が目立つことがある。基礎的技術の定着が課題である。

3年生・・・お互いを大切にする穏やかな学年である。どの単元においても、高い興味・関心を持って臨んでいる生徒が多い。一部、学習意欲に欠け集中できない状況や、基礎的知識・技術が不足している生徒が見受けられる。

(2) 調査結果の分析

全学年・・・教師側から伝えたいことが生徒にはっきりと伝わっていないことを多くの場面で感じる事が調査結果に出て来ている。生徒に理解できる言葉を選び、より丁寧な発声や板書の工夫が教師側には必要となる。

2. 指導上の課題

- ・ 授業に対する関心・意欲は高いが、学習内容を理解して生活の中に生かそうとする姿勢が不十分である。
- ・ 製作の苦手な生徒にも、完成した時の充実感を体験できるような学びを実現させる。
- ・ 授業の目標、学習内容等を理解しやすくする。

3. 授業改善の視点とその方策

- (1) 多くの資料や見本を提示し、自身の生活と、学習したこととの関連に気付せ、実生活との結びつきを図っていく。
- (2) 自分の作品のよい点に気付かせ、自信を持たせるような言葉がけに配慮する。
- (3) 毎時間の授業の目標を生徒が自覚できるような板書の工夫や、理解しやすい言葉づかいにこころがけ、何を学ぶのかをより意識できるようにする。
- (4) 授業内容を細分化し、ワークシートを活用し理解が深められるようにする。